

Title	平成5年度事業報告
Author(s)	
Citation	癌と人. 21 P.12-P.13
Issue Date	1994-03-31
Text Version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/11094/23913">http://hdl.handle.net/11094/23913</a>
DOI	
rights	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

# 平成5年度事業報告

(財)大阪癌研究会

## 1. 一般学術研究助成について

本年度も癌に関する学術研究を奨励助成するため公募したところ全国から43名の応募者があった。

一般学術研究助成選衡委員会（委員長豊島久真男一大阪大学教授他4委員で構成）で慎重に検討され、理事会で決定された助成対象者は別紙のとおり12名であった。

## 2. 乳がん検診について

乳がん集団検診では吹田、豊中、池田、箕面、茨木、摂津、大東、藤井寺、羽曳野、豊能、八尾、の11市町の住民の方々及び、摂津、吹田、門真の市教職員について行い総受検者数10,420名、要精検者数322名でそのうち乳がんと判ったのは9名（平成6年2月末現在）であった。

## 3. 大腸がん検診について

便潜血反応検査による大腸がん集団検診については大阪商工会議所、大阪対がん協会、衛生婦人団体、社会福祉協会及び茨木、河南、高石、摂津、吹田の5市町の方々及び個人の方々について行い総受検者数12,566名、要精検者数509名のうち、大腸がんと判ったのは24名（平成6年2月末現在）であった。

## 4. がんの知識普及活動について

「癌と人」の会誌20号を刊行し配布した。また、「乳がんの自己診断のすすめ」及び「大腸がん検診のすすめ」等のパンフレットを発行した。

平成5年度「一般学術研究助成金」助成対象者

氏名	所属機関	研究テーマ
瀧原 義 宏	大阪大学微生物病研究所 難治疾患バイオ分析部門 遺伝子疾患研究分野	胚性腫瘍細胞株F9を用いた細胞分化と脱がん化の分子機構の研究：新しい細胞増殖制御遺伝子14-3-3の解析
井 上 俊 彦	大阪大学医学部附属バイオメディカル教育センター集学放射線治療学研究部	悪性腫瘍に対する粒子線治療の臨床応用のための基礎的研究
本 田 浩 章	自治医科大学 分子生物学講座	血液細胞の情報伝達機構におけるチロシンフォスファターゼの機能の解析
佐 藤 靖 史	大分医科大学内科第一	悪性腫瘍の潜在型TGF- $\beta$ 活性化機構の解明とその制御
木 本 雅 夫	佐賀医科大学	リンパ系細胞の生存と死滅に関する研究
居 石 克 夫	九州大学医学部 病理学教室第一講座	生物学的予後因子としての腫瘍由来血管新生因子に関する分子病理学的研究
寺 田 信 行	大阪府立成人病センター研究所	Medroxyprogesterone acetateの腫瘍血管新生抑制の作用機構
久保田 優	京都大学小児科	小児癌患者化学療法後の体細胞突然変異の検討
松 村 隆 文	京都府立医科大学	神経芽腫細胞における細胞障害性リンパ球により認識される腫瘍特異抗原の分子生物学的解析
板 倉 光 夫	徳島大学医学部 臨床分子栄養学 (大塚) 講座	アミドホスホリボシルトランスフェラーゼのcDNAに対するアンチセンスDNAを用いる増殖抑制、抗癌作用アンチセンスDNA医薬の開発
野 田 政 樹	東京医科歯科大学 難治疾患研究所	骨肉腫細胞転移の分子機構の解明分泌性リン蛋白質—(Secreted Phosphoprotein-1)の細胞転移への関与—
長谷川 均	愛媛大学 医学部附属病院	成人T細胞白血病細胞の増殖に関与するcdc2ファミリーキナーゼの解析